

やまがた認知症カフェ通信 2017 2月号

平成29年2月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

特集 カフェで実践する新オレンジプラン② 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

認知症サポーターが県内で10万人を超えています。

「認知症カフェで実践する新オレンジプラン」として、12月号では「本人・家族の視点の重視」について特集しましたが、今回は、プランの第1の柱「普及・啓発」についてご紹介します。プランでは「認知症は皆にとって身近な病気であること」を普及・啓発していくため、「認知症サポーター」を全国で養成していくとしています。県では目標としていた10万人の養成を昨年末に達成しましたが、市町村ごとに養成のバラつきがあることや若年層の養成など、課題もあります。サポーター養成講座は、認知症について正しく学ぶ入口の学習として、とても分かりやすい構成になっています。まずは地域のサポーターの養成状況を確認し、サポーターの数が少ない地域では、最初のステップとして、カフェで地域住民を対象とした講座を開いてみてはいかがでしょうか。

県内で10万人を超えるサポーターは、カフェ運営のため貴重な社会資源でもあります。しかし、「サポーターにはなったものの、何をしたら良いかわからない」という方も多いのが実情です。次のステップとして、できる範囲で、ボランティアとしてカフェの運営をお手伝いいただくこともよいでしょう。顔なじみの関係となることで地域の見守り意識も高まり、参加を通じて認知症についての理解をさらに深める場にもなります。

下の写真は、県内のあるグループホームでのカフェの様子です。地域のサポーターがお揃いのオレンジ色のエプロンを身につけ、お茶やお菓子の準備、傾聴などを行っています。継続の秘訣は、サポーター自身も楽しんで参加することのようです。



新オレンジプランの7つの柱

順位	市町村	人口 ①	サポーター数②	割合②÷①
1	遊佐町	14,649	2,539	17.30%
2	三川町	7,560	1,225	16.20%
3	川西町	16,129	2,360	14.60%
33	小国町	8,123	244	3.00%
34	鮭川村	4,543	87	1.90%
35	大蔵村	3,508	62	1.80%
-	県計	1,129,560	103,607	9.20%

表 県内のサポーター数(平成28年12月末時点)



(普及・啓発のために認知症カフェでできること)

- **まずは、サポーターの養成状況を確認する**
→市町村別の養成状況は、県ホームページに掲載しています。
- **認知症サポーター養成講座を開催する**
→講座の長さは60～90分間で、「キャラバンメイト」として登録されている方が講師になる必要があります。費用は市町村によって異なりますが、無料の場合もあります。詳しくは、申込み窓口である各市町村にお問い合わせください。
- **サポーターにカフェ運営をお手伝いいただく**
→お茶・お菓子の準備や片づけなど、ボランティアスタッフとしてお手伝いいただくほか、傾聴などを通じ、認知症の当事者・家族への理解を深めていただければいかがでしょうか。

さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

山形版「若年性認知症の人と支援者のためのガイドブック」を作成しています。

さくらんぼカフェは、若年性認知症の方の退職後の居場所としても利用されています。若年性認知症は発症年齢が若いことで、仕事のこと、家庭のこと、その先の人生のことなど、ご本人やその家族の不安が大きくなっていきます。

現在、若年性認知症ご本人と家族の声をお聞きしながら、様々な戸惑いが少しでも軽減されるよう「若年性認知症の人と支援者のためのガイドブック」作成に取り組んでいます。ガイドブックには医療機関への受診、各市町村の相談窓口、利用できる社会資源やサービスなどを紹介します。また、本人と家族が安心できる環境、居場所を築くことが重要であることから県内の認知症カフェ開設状況一覧も掲載される予定です。

ガイドブックはご本人、家族、相談を受ける人に活用いただきたい冊子です。完成しましたらご案内します。

■問合せ:さくらんぼカフェ ☎023-687-0387(平日 昼12時～午後4時)

カフェやまびこー最上町ー

グループホームやまなみは開所して6年が過ぎましたが、一貫して、地域住民との交流を重視して運営してきました。地域のいも煮会や祭りへの参加、県境を接する宮城県鳴子温泉のグループホームの祭りへの参加、年3回、ホームで催すミニコンサートへの地域住民のご招待等々、認知症介護に活かせる活動を地域を巻き込んで行ってきました。

仙台での認知症カフェ養成講座に参加したりして、法人で認知症カフェを企画していたところ、町から委託の声がかかり、昨年3月開所しました。

認知症介護の経験、ノウハウ、法人で培ったNPO活動の実績を生かし、認知症予防、家族への相談活動、DVD の上映、コンサートや紙しばい、踊り、歌等で楽しく運営しています。9月のカフェでは、会場のグループ

ホームの南側一面のそば畑をバックに、入居者や参加者一同でパチリ。参加者全員にスナップを差し上げました。

回を追うごとに参加者も増え、町内から20人程が参加するようになりました。

会場がグループホームの時は入居者さんと会話をしながら「昔の生活の様子が聞けて楽しかった」「認知症になっても女学校の時代や戦争の体験をきちんと話されて、感激した」等々の声が寄せられています。

開設一年を経過し、隔月開催からもっと回数を増やし、在宅で過ごされている認知症の方やご家族、地域住民に貢献できる活動にねばり強く取り組んでいきたいと思っています。

■問合せ：グループホームやまなみ

☎0233-43-3606



■基本データ

運営母体	NPO 法人やまなみ
場所	グループホームやまなみ(最上町向町5-10) NPO 法人やまなみ(最上町向町644-3)
開設時間	奇数月第3金曜日 13:30~15:30
対象者	認知症の人とその家族、地域住民
利用料金	無料
飲食メニュー	コーヒー、紅茶、緑茶、ケーキ、菓子、ダンゴ、等
内容	DVD 観賞、歌や踊り、認知症への対応の学習会、コンサート 等
スタッフ	NPO 法人の会員、認知症サポーター、地域住民
連携機関	町の地域包括支援センター
宣伝・広報	町内会にチラシ回覧、チラシ配布、NPO 法人やまなみ会報掲載(新聞折込)

地域住民による支え合いを目指して！

酒田市認知症地域支援推進員（有資格 介護支援専門員）
酒田市地域包括支援センターはくちょう

小嶋 裕(こじま ゆたか)さん ー酒田市ー

私はH24年度から認知症地域支援推進員として活動を始めました。これまでに認知症サポーター養成講座、薬剤師の講話やロコモ予防を取り入れた家族会開催等の活動を行ってきました。

推進員として活動した当初から現在にかけて感じる事ですが、地域に住む方々の認知症への理解が進んできた様に思います。認知症に関しての相談件数は年々増加傾向にあり、相談内容も多様性に富んでおります。以前は地区の民生委員や自治会長の方々からの情報提供が主でしたが、最近ではご近所の方々からの情報提供も聞かれる様になり、包括や認知症に関しての理解が進んできて、また地域住民の助け合おうという絆の強さを感じる様にもなりました。

しかし本人や家族に認知症に関しての理解や協力が少ないケースも実際にあり、受診や介護サービスに繋がらない、徘徊やご近所トラブル等、対応や支援にも頭を悩ませることがあります。また認知症サポーター養成講座や家族会を行う中で、高齢の方々の参加者が中心で小中学校生徒等の若年層や、仕事で第一線で働いている中高年層への普及啓発が課題と感じました。

認知症や介護が必要になっても住み慣れた自宅で暮らしたい。その為には本人・家族だけでなく地域住民の方々から認知症について理解を深めて頂き、今後も声掛けや助け合い、絆がより強くなる様に、今後も地域住民の方々と普及・啓発活動等を通し関わりを深めていければと考えております。

(編集部より) 今回は、H24年から酒田市認知症地域支援推進員として活動している小嶋裕さんです。地域の方の認知症理解のために、認知症サポーター養成講座をはじめ、様々な活動に取り組んでいます。次回は、小嶋さんからのご紹介で真室川町認知症地域支援推進員の齊藤千宗さんです。



めざせ！カフェマスター

認知症カフェを極めたいあなたに、マメ知識を紹介します。

認知症当事者が活躍する認知症カフェの紹介

12月号では、当事者の声を聴くということで、長井市での認知症カフェを紹介しました。このカフェでは、若年性認知症当事者が自身の体験談や思いを話されました。このようにカフェの中には、当事者による講話などを実施しているところもあります。また、当事者がスタッフとなって運営しているカフェもあります。当事者がコーヒーを入れたり、飲み物を運んだり、また、俳句や手芸などの特技を生かし講師となって教えたりしているカフェです。これらのカフェは、当事者が社会とのつながりや役割を持つことにより、やりがいを感じ、自信や自分らしさを取り戻す場となっているようです。また、当事者による講話は、自身の思いを社会に発信する機会にもなっているようです。¹⁾このような当事者が活躍するカフェをいくつかご紹介します。

- ① 『オレンジサロン 石蔵カフェ』栃木県宇都宮市・・・当事者がマスター役で注文を聞いたり、コーヒーを運んだりします。また、認知症の参加者の方でも一人一人ができる範囲内で食器の片づけや皿洗いを担っています。²⁾
- ② 『出張認知症カフェ(D-Cafe)』東京都町田市・・・企画段階から当事者が参加し、「地域社会への貢献」「認知症の人が仲間を作れる場所」を理念に当事者の講演やライブ演奏など、テーマや場所を変えて実施しています。³⁾
- ③ 『おれんじドア』宮城県仙台市・・・認知症カフェとは少し違うかも知れませんが、若年性認知症当事者である丹野智文氏が中心となり、カフェ形式のご本人のためのもの忘れ総合相談窓口として、“当事者同士の出会いの場”“当事者同士が話をする場”として実施しています。

当事者が主体となり活躍するカフェを企画し、当事者の視点に立ったカフェの運営が望まれます。

参考図書・資料：1) 認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書 認知症のひとと家族の会

2) 平成26年度版高齢社会白書 3) <https://dementiacafe-machida.jimdo.com/>



新規オープンカフェ

ここにこカフェ(三川町)

- 日時:3月10日(金)13:30~15:30※出入り自由
- 場所:三川町社会福祉センター
(三川町大字横山字西田85-2)
- 対象者:どなたでも
- 問合せ:三川町地域包括支援センター ☎0235-35-7031

カフェ情報

茶屋よつとこえ(飯豊町)

- 日時:3月20日(月・祝) 14:00~15:30
※毎月第3月曜日上記時間で開催予定
※送迎希望の方は開催日3日前までに申込み下さい
- 場所:ケアハウスめざみの里 (飯豊町大字菰生3608-1)
- 対象者:町民の方、どなたでも ※要申込み
- 申込み・問合せ:飯豊町地域包括支援センター
☎0238-86-2233

イベント情報

認知症高齢者声かけ訓練(村山市)

- 日時:3月6日(月)8:30~12:00

- 場所: 支えあい館
(村山市榎岡十日町7-15 旧宮本家具店)
- 対象者:地域住民の方など、どなたでも
- 問合せ:在宅介護を支える家族の会
☎090-2844-1150

※前日3月5日(日)12:00~15:00、同会場にて「おしゃべりカフェ」を開催、参加費300円(茶菓子代込み)

認知症カフェと認ともを考える全国セミナー(東京都)

- 日時:3月8日(水)14:20~18:00 (14:00受付開始)
- 場所:有楽町朝日ホール
(東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン11F)
- 定員:500名(先着順)
※FAXにてお申込み下さい
- 参加費:無料
- 問合せ:認知症介護研究・研修仙台センター
☎022-303-7556 FAX022-303-7568

脳イキイキセミナー~介護予防の視点から~(河北町)

- 講師:KUMON 学習療法センター 普及部 東日本チーム
エリアマネージャー 畠山忠男氏
- 日時:3月21日(火)13:30~
- 場所:ひいなの里地域文化ホール(河北町谷地字月山堂 1217-5)
- 参加費:無料(コーヒー、お茶、お菓子)
- 問合せ:ひいなの里 ☎0237-71-1880 担当 永山

認知症施策推進協力員の藤井が皆さまのモヤモヤを解決するコーナー



藤井がゆく

道路交通法の改正と高齢者の運転免許のこと

皆さんご存じかと思いますが、来月12日から道路交通法が改正されます。高齢運転者の事故は、加齢による認知機能の低下が影響していると言われていたことから、今回の改正では、高齢者の認知機能検査の要件が強化されます。具体的にどのように変わるのでしょうか。まずは、75歳以上の運転者が逆走や信号無視などの18項目に違反した場合、臨時の認知機能検査を受けることになります。また、この検査結果が前回より悪化している場合などに、臨時の高齢者講習を受ける事になります。更に、今回の改正では、更新時及び臨時の認知機能検査で「認知症のおそれがある」と判定された方は、臨時の適正検査を受けるか、認知症の専門的な知識を有する医師の診断書を提出することになります。認知症と診断された場合は免許取り消しの等の対象になるということです。

高齢になり視力・体力など健康に不安がでて運転に自信がなくなってきたら、自主返納を考えてみてはいかがでしょうか。高齢者の方が運転免許を自主返納すると、自治体などによっては交通機関の運賃補助などの支援を受けられたり、運転免許証に代わる身分証明書として、運転経歴証明書が発行されます。さくらんぼカフェの利用者の方にも、自主返納し、バスの運賃補助を受けた定期券を利用して来所された方もいます。とにかく安全が第一です。

発行元

山形県認知症相談・交流拠点
さくらんぼカフェ
TEL023-687-0387
FAX023-687-0397
皆さまのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

この冬は、一晩で結構な雪が積もることが多いですね。積雪や降雪はお年寄りの除雪の問題だけではないように思えます。空き家の問題や除雪のオペレーターさんの確保も大変と聞きます。雪で建物倒壊の危険性が高まったり、生活道路の轍が尋常でなかったり、安全な環境が脅かされたりします。今までは何とかなっていた様々なことが、これからは当たり前にはできない時代ではないことを覚悟しなければいけませんね。そろそろ春のにおいが待ち遠しいこの頃です。(五十嵐)